

# MEIJIMURA

明治村だより  
Vol.85 2016 Autumn



## CONTENTS

- ブラジル移民住宅保存修理工事 ..... 10
- 明治村写真コンテスト紙上展覧会 ..... 8
- 夏目漱石没100年記念特別展「吾輩ハ、デザイナーデモアル」 ..... 7
- 語り継ぐ建築 ..... 6
- 秋の催しもの ..... 4
- A La Meiji-mura ..... 2
- 明治村版リアル人生ゲーム案内 ..... 裏表紙



団体専用

新登場!

# 明治村版 リアル人生ゲーム

激動の時代を、明治村で体験しよう。

10月1日(土)スタート!

タブレットを使って「人生ゲーム」の盤面に見立てた村内を巡り、様々なミッションに挑戦!  
ルーレットを回して、目指せ億万長者!

- 利用条件 20名以上の団体(事前予約制・先着順)
  - 参加料 無料 ※ただし、別途「のりもの1日券付入村券」のご購入が必要となります。
  - 対象年齢 12歳以上
- 制作協力/株式会社タカラトミー  
システム開発/株式会社メイテツコム

### お申込・お問い合わせ

- 申込 HPより「利用申込書」をダウンロードし、必要事項をご記入の上メールもしくはFAXにてお申込みください。  
メール: meiji-eigyuu@nrr.meitetsu.co.jp  
FAX: (0568) 67-0358
- 問い合わせ (0568) 67-0314  
「明治村版リアル人生ゲーム」受付係まで  
※ご来村予定の7営業日前までにお申込みください。



「人生ゲーム」はタカラトミーから好評発売中。(3,980円(税抜))  
詳しくはこちら



© TOMY



表紙錦絵  
横浜商館天主堂ノ図 歌川広重(三代)画 明治3(1870)年

平成28年9月9日発行  
「明治村だより」第85号(平成28年秋)

発行 博物館明治村  
〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地  
電話 (0568) 67-0314  
http://www.meijimura.com

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第86号発行のお知らせ

発行時期 平成28年12月中旬(予定)  
申込方法 「明治村だより」第86号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円切手とともに封書にてお申し込み下さい。



# ブラジル移民住宅 保存修理工事

## 日系移民住宅の材料と技法



写真1 修理前外観

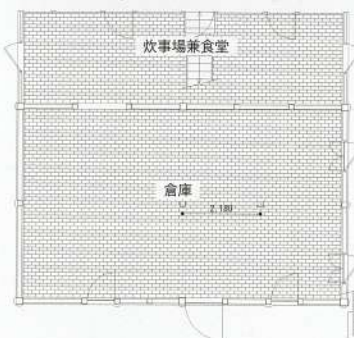


図1 一階平面図

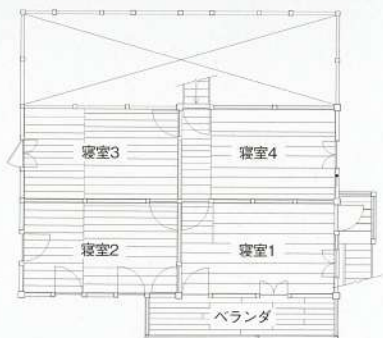


図2 二階平面図

### はじめに

博物館明治村四丁目、入鹿池のほとりに建つ「ブラジル移民住宅」では、平成二十七年十二月より平成二十九年三月末を竣工予定に、屋根替・部分解体修理工事が行われております。ここでは、ブラジル移民住宅の特徴と修理事業の経過をご紹介します。

### 建物の概要

この建物は、ブラジルに移民として入植した日本人夫妻が大正八年、サンパウロ州レジストロに建てた移民住宅です(写真1)。この夫妻は、入植した地で密林を切り拓いて耕地とし、三人の日本人大工とともに自らも道具を握り、この住宅の建設に従事したといわれています。建物には、カネラと呼ばれる非常に硬い現地材が使われ、この重硬な現地材に、日本の伝統技法を用いて建てられ



写真2 二階床梁(ベランダ持出梁)

た点が、「ブラジル移民住宅」のひとつの特徴です。木造二階建て、切妻造のスペイン瓦葺で、二階北面にはベランダが張り出します(図1、2)。二階床梁は一枚で造りだされ、ベランダ持出梁を兼ねており、ベランダが当初からの計画であったことがわかります(写真2)。当初の壁は、ジュサラ(椰子の一種)を割って小舞とし、シッポー(蔓の一種)の薬を縄の代わりにして、土壁が塗られています。土壁が塗られていたが、移築の際、筋違いが入れられ、ボード張のうえ、外壁がモルタル仕上、内壁は漆喰仕上へと変更されました。小屋組は、日本の伝統的な小屋の形式をとっています。松の角材でつくられた小屋梁と束は、すべて移築時に追加されたものであり、当初、小屋組の部材数は最小限に抑えられていたと考えられます(写真3)。屋根は、スペイン瓦が葺き下ろされ、下屋部分、庇部分は野地板を張らず、小舞の上に直接瓦を葺きます(写真4)。部材の接合方法は、日本の伝統的な継手仕口によるもので、計画寸法は尺貫法を用いることから、日本大工の手により、伝統的な工法と寸法体系が用いられ、建物が造られたことがわかります。

### 修理事業の概要

「ブラジル移民住宅」は、昭和五十年、明治村へ移築されました。移築以降、大掛かりな修理工事は行われておらず、土台周り、軒周りを中心として、一部の腐食が著しい状態にありました(写真5)。その他の劣化として、軒、ベランダの垂下、全面にわたる瓦の経年劣化がみられ、この度、保存修理工事を実施する運びとなりました。



写真4 下屋 屋根



写真3 小屋組



写真6 揚屋工事

写真7 倉庫壁 竹小舞下地

修理概要は、①屋根瓦の全面葺替え、②木部腐朽箇所修理工事、③壁仕様の變更、④建具の修理です。また、建物下部の補修の為、揚屋を伴う工事となりました。建物全体をジャッキで四十七センチほど持ち上げ固定し、その状態で腐食のある土台・柱脚を取替えました(写真6)。その他、壁は既存の筋違いを撤去し、竹小舞下地の壁とすることで、耐震性能上、耐力を見込むこととしました(写真7)。

### 材料と技法

今回の修理工事にあたっての問題のひとつは、木部腐朽箇所の取替え材として、どのような材種を選択するかということがありました。当初材のカネラは、独特の木目をもつ現地材という点において、建物の特徴付けていましたが、現在ブラジルにおいて希少材として伐採が禁止されており、市場に流通していないため、入手は困難でした。

文化財の修理における新補材には、在来と同等品位、同等級のもの、もしくは、新補材と明らかに判別できる在来とは異なる材を使用するものと考えられます。明治村の修理工事では、原則、前者を採用していますが、移築時には後者が選択され、取替え材として米松が採用されました。特に、下屋部分では、柱がすべて松材で取替えられており、建物の表情が当初と幾分異なる結果となりました。

今回の修理工事では、建物の風合いを損ねぬよう、腐



写真9 土台 隅留め

食のみられる土台等、主要な部材の取替え材には、入手可能な材の中でもカネラに比較的本目が似ている、セラガンバツを代替材として選択しました。セラガンバツは東南アジア産の広葉樹で、耐久性があり、一般にウッドデッキ等に用いられます。当初材のうち、土台、柱、桁等、部材断面の大きなものは、表面仕上に新による加工が確認されました(図3)。今回の修理工事でも、大断面の取替え材には、新による「はつり痕」を残し、建物の風合いを失わぬよう心掛けました(写真8)。



写真8 セラガンバツの新仕上げ

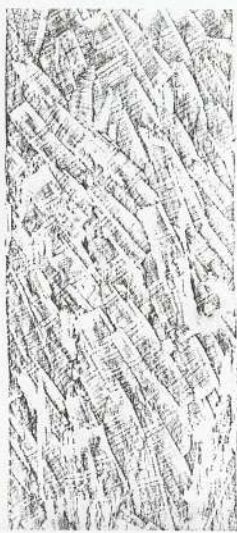


図3 通し柱拓本

建物の工法をみると、材の継手には、桁にみられる突付けなど、単純な手法が用いられていました。一方で、土台隅の仕口では、隅留め柄(写真9)が、柱とベランダ梁の仕口では柄差し丸留め(写真10)がみられ、日本大工が、慣れない材に、限られた道具を駆使して、施工にあたったことがわかります。今回の修理工事において、木部取替え箇所は、セラガンバツを用いて、当初の工法に倣うことを基本としました。セラガンバツは、非常に重硬な材で



写真11 土台 修理後



写真10 二階柱 差し丸留め

あるため、工事着手前は加工が困難と思われましたが、特に大きな問題もなく、木部補修は完了しました(写真11)。「ブラジル移民住宅」の工法における調査は、屋根替えを伴う部分解体工事であるため、限られた箇所のみとなりましたが、入植者が、現地材に日本の伝統技法を適用していたことが確認できました。

原始的な材料と工法をもつ建築です。今回の修理工事では、木材の加工、壁の仕様、新規瓦の製作について、当初の大らかな風合いを活かし、仕上がりが均一になりすぎないように心がけました。建物が衰いを新たに再び公開される際は、是非そういった点に着目していただくと幸いです。近年、移民の人々の生活に注目が集まりつつあります。ブラジル国内では、サンパウロ州レジストロとイグアペにおいて日系移民に関わる十四棟の建築が文化遺産として登録され、国の保護の対象とされました。日系移民の人々が、どのような生活文化を異国の地に構築してきたのか、この建物を通して、すこしでも伝えることができたらの思いをこめて、修理工事を進めていきます。

これらの入賞作品は平成28年9月10日(土)～12月11日(日)、  
東山梨郡役所2階で展示されます。



「赤く染まる監獄」有馬 育男

フェスティバル賞  
特賞



「早春を駆ける陸蒸気」  
島尻 武史

鉄ショット賞  
特賞



「寒稽古」鈴木 康二

協賛会社賞  
CAPA賞



「ライトアップ」沖林 富士夫

協賛会社賞  
ハクバ  
写真産業賞



「初夏に薄雪」中村 和夫

協賛会社賞  
富士フィルム賞

### 明治村写真コンテスト「明治村百景」募集要項

- テーマ：明治村を表す作品  
明治村の四季折々の美しさや賑わい、明治村を楽しむ人々の心温まる風景やイベントの様子
- 規定：詳細は専用チラシ・HPをご覧ください
- 締め切り：平成29年6月30日(金) (当日消印有効)
- 審査：明治村で選考した委員
- 発表：平成29年8月末までに本人宛に通知
- 表彰式/作品展：平成29年秋を予定
- 主催：博物館 明治村
- 協賛：松山市  
富士フィルムイメージングシステムズ株式会社  
ハクバ写真産業株式会社  
株式会社学研パブリッシング CAPA編集部
- 応募及び問合せ先：〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地  
博物館明治村写真コンテスト係  
電話 0568-67-0314 FAX 0568-67-0358

- 賞：
  - 明治村大賞 ..... 1点  
賞金10万円/記念品/賞状
  - 村長賞 ..... 1点  
賞金3万円/記念品/賞状
  - 明治のある風景賞(建物や村内の風景を収めた写真) ..... 2点
  - 鉄ショット賞(SLや京都市電など乗り物の写真) ..... 2点
  - フェスティバル賞(村内で開催されたイベントの写真) ..... 2点
  - 季節のうつろい賞(季節を感じられる写真) ..... 2点  
特賞：賞金2万円/記念品/賞状 入選：賞金1万円/記念品/賞状(各賞1点ずつ)
  - 松山・明治体感パートナー賞 ..... 5点
  - 富士フィルム賞 ..... 5点
  - ハクバ写真産業賞 ..... 2点
  - CAPA賞 ..... 2点
  - 審査員特別賞 ..... 6点  
記念品/賞状

賞や賞品等について予告なく変更する場合があります。

# 明治村写真コンテスト 紙上展覧会

村長賞



「初恋」  
田中 賢

明治村  
大賞



「祈る少女」  
加茂 睦博

明治のある  
風景賞  
特賞



「秋月の夕」大江 雅史

季節の  
うつろい賞  
特賞



「春の桜ゆき」荻野 直敏

## 夏目漱石 登場!

村内で夏目漱石などの偉人を見つけて名刺をもらおう!

期 間/  
10月1日(土)~10日(月・祝)の土日祝、  
11月3日(木祝)~27日(日)の土日祝

## 漱石と一緒に 読んでみよう

東海テレビアナウンサーと一緒に漱石の作品を朗読してみませんか?  
気軽に参加できる朗読会です。

開催日/11月3日(木・祝)  
時 間/①13:30~ ②14:30~  
会 場/呉服座

## 明治村文化講座 明治塾 ~夏目漱石~

特別展「吾輩ハ、デザイナーデモアル」連動の企画です。夏目漱石をより深く知ることができる講座です。

漱石の作品のみならず、漱石の遺した手紙、また漱石に宛てられた手紙など、幅広く漱石に関連する資料に携わってこられた方々にご講演いただきます。  
近年発見された漱石関連資料についてなど、「旬」なお話をうかがうことができます。

開催日・講師/  
10月 2日 長島 裕子 (早稲田大学文学学術院非常勤講師)  
11月 6日 中島 国彦 (早稲田大学名誉教授)  
11月27日 赤峯 裕子 (岩波書店編集部)

受 講 料/3回で5,000円 事前予約制 講座内容など詳細は明治村HPでご確認下さい。

## 吾輩ノグルメ 期間9月10日(土)~11月27日(日)



漱石御膳 1,700円  
(和食処 碧水亭)  
※火曜休業  
売り切れの際は、ご容赦願います。



開花丼 980円  
(めん処 なごや庵)



栗むし羊羹のお抹茶セット  
650円  
(京甘味処 なか井茶寮)



イートン・メス風  
ヨーグルトサンデー  
650円  
(デンキブランザンバー)

## 夏目漱石 没100年記念 特別展

# 吾輩ハ、デザイナーデモアル

### 第1部 夏目漱石の「うつくしい本」

夏目漱石の著作『吾輩は猫である』をはじめ単行本として出版された作品は、漱石の「うつくしい本」を作りたいという思いが込められたものです。橋口五葉や夏目漱石自身が手がけた初版本の装幀やそれらの画稿などとともに、装幀について交わされた漱石と彼を取り巻く人々の手紙を紹介いたします。



『吾輩は猫である』  
(上篇)扉



『吾輩は猫である』  
(中篇)扉



『濠虚集』扉



『こころ(初版本)』と、夏目漱石から橋口貢へ宛てられた書簡

### 第3部 「漱石を取り巻く人々、漱石の広がり」

漱石は友人や教え子との間で現在確認されているだけでも2000通を超える手紙を残しています。その中で漱石は、自分の夢や、弟子たちへの教育的指導、趣味のことなど様々なことを語っています。また、彼の作品は新聞小説として多くの方から愛用され、国内のみならず翻訳され外国からも多くの読者を集めました。手紙を通して、漱石を取り巻く人々を紹介するとともに、外国語に翻訳された漱石の著書を紹介いたします。

「小生は人に手紙をかく事と、人から手紙をもらふ事が大好きである。」



#### 漱石さんへメッセージを送ろう!

会場: 宇治山田郵便局舎

手紙好きの漱石さんに向けて皆さんメッセージを書いてみませんか。  
書いたメッセージは宇治山田郵便局舎内の特設ポストに投函してください(切手不要)。  
投函していただいたメッセージは随時掲出し、会期終了後は、漱石ゆかりの土地へ巡回する予定です。

『吾輩は猫である』『坊っちゃん』『こころ』など、明治時代から大正時代にかけて発表された夏目漱石の作品は、現在も名作として人々を魅了しています。漱石は美術の造詣が深く、特にブックデザインには熱い想いを傾けていました。  
今回の展覧会は、夏目漱石没100年を記念し、漱石の書籍に用いられた装幀・挿絵に焦点をあて、現代においても色あせることのない彼のブックデザインを、漱石自身や橋口五葉が描いた画稿や、漱石と友人・高浜虚子、橋口貢・五葉兄弟、寺田寅彦、岩波茂雄、野間真綱らとの間で交わされた手紙とともに紹介いたします。



期 間/9月10日(土)~12月11日(日)

会 場/千早赤阪小学校講堂

料 金/200円(中学生以下は無料)

後 援/朝日新聞社、日本郵政株式会社、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会

協 力/全日本空輸株式会社、岩波書店

### 第2部 「吾輩はここで生まれた」

明治村に移築されている森岡外・夏目漱石住宅は彼の文壇デビュー作となる『吾輩は猫である』を執筆した場所です。漱石が暮らした駒込千駄木町57番地の住宅や、漱石の人となりや古写真・手紙や遺愛品等から紹介いたします。



夏目漱石が『吾輩は猫である』を執筆した住宅



シルクハット  
(夏目漱石着用)

秋の催しもの

# あかりの明治村

11月5日(土)～27日(日)の土日祝  
開催日は19時まで延長開村  
※一部エリアは16時まで  
※雨天時は延長開村中止の場合あり

## ひかり場 (高橋匡太作)

アーティスト高橋匡太が考案した「ひかり場」。みんなで布を揺り動かすことで、光が色とりどりに変化します。新たなひかりの空間を発見しよう!



時間/16:00～19:00  
会場/食道楽のカフェ横芝生広場  
協力/徳島LEDアートフェスティバル2016実行委員会

## 第二回 明治村あかりアート展

全国からご応募いただいた陶磁器作品の中から入賞作品を展示。趣向を凝らした“あかりのオブジェ”が歴史的建造物をやわらかく灯します。



時間/16:00～19:00  
会場/東松家住宅  
協力/土岐津陶磁器工業協同組合、愛知県陶磁器工業協同組合、とこなめ焼協同組合

## 品川燈台特別公開

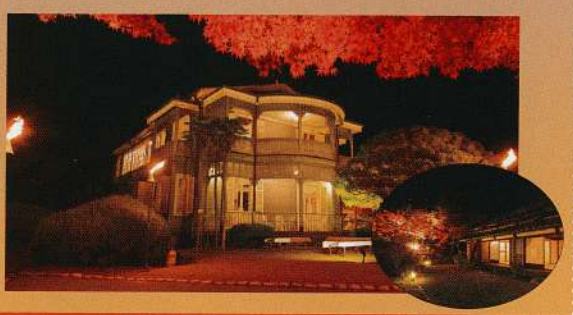
通常非公開の品川燈台内部を特別公開。夜間には、明治時代の灯器の点灯実演を行います。また、両日とも海上保安庁・公式キャラ「うみまる」が皆さまをお出迎えます!



開催日/11月5日(土)、6日(日)  
協力/第四管区海上保安本部  
公益社団法人 燈光会、大日本アガ株式会社

## 紅葉ライトアップ

秋の夜ならではの美しい紅葉と歴史的建造物の競演をお楽しみください。



開催日/11月19日(土)、20日(日)  
23日(水・祝)、26日(土)  
27日(日)  
会場/1丁目(西郷従道邸付近)  
時間/16:00～19:00

## 錦秋の美酒

ライトアップされた美しい紅葉を愛でながら、美味しいお酒と肴をお楽しみいただけます。



開催日/11月19日(土)、20日(日)  
23日(水・祝)  
26日(土)、27日(日)  
会場/1丁目(西郷従道邸付近)  
時間/16:00～19:00  
※ラストオーダー 18:30

## アガワ企画

着て! 見て! 明治村!

大人気「ハイカラ衣装館」で長時間レンタルサービスがスタート!  
明治時代風の矢絣や袴に身を包み、村内を自由に散策しよう。

この時期ならではの特別イベントをご紹介します!  
明治の秋をたっぷりとお楽しみください。



明治村の4代目村長・阿川佐和子さん

開始日/10月1日(土)～  
店舗/ハイカラ衣装館 (2丁目20番地 安田銀行会津支店)  
料金/3,000円  
定員/1日先着10名様  
サイズ/女学生 150cm～165cm  
書生服 150cm～175cm  
※サイズ・数量に限りがございます。雨天中止

## きものハロウィン



10月30日(日)～11月7日(月)  
きもので来村の方は  
**入村料500円**  
※浴衣・甚平・作務衣は対象外です

**女性限定** きもの着付け体験  
開催日/10月29日(土)～11月6日(日)の土日祝  
料金/1,000円(90分)  
**和髪体験**  
開催日/10月29日(土)～11月6日(日)の土日祝  
料金/1,000円

## ハロウィンスペシャルDAY

10/29(土)  
きもので来村の方は、なんと**入村料無料**になる1日限りのスペシャルDAY!

**お菓子プレゼント**  
小学生以下の方と、きもの方限定!  
ある建物を訪れると住人からお菓子のプレゼントが!  
時間/15:00～16:00  
なくなり次第終了します。

## 阿川村長と巡るスペシャルガイドツアー

事前応募制

明治村の4代目村長・阿川佐和子氏と明治村を巡るスペシャルガイドツアー。

※ガイドは学芸員が行います。  
開催日/11月25日(金)  
定員/10名  
※応募方法などの詳細は明治村公式HPをご覧ください。

お問い合わせ先 <http://www.meijimura.com> または 0568-67-0314



写真1 展示中の解体材(左:つば、右:水鉢)

「つば」は、上部が欠けていますが、建物正面の池と玄関入口の間にあったものです(図面中★写真2)。現在建物には複製が設置されていますが、ホテルを正面から見た

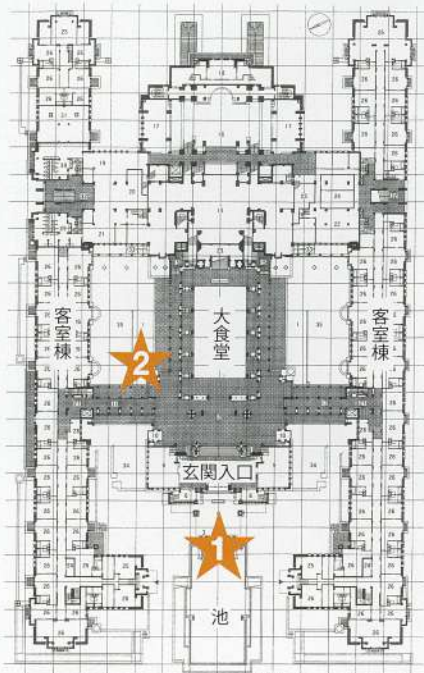
## 人の手が生み出した石の装飾

●帝国ホテル中央玄関(5丁目67番地)



帝国ホテル中央玄関の入り口脇には、「つば」「水鉢」と記された二点の解体材が展示されています(写真1)。まるで古代宮殿の遺跡にあったもののような印象を受けますが、これらの解体材は、帝国ホテルで使用された大谷石の装飾です。

「つば」は、



帝国ホテル基本階図面

大谷石が採掘された現場は、現在も周辺に住む人々から「ホテル山」と呼ばれて

岩「大谷石」を使った装飾です。かつて大谷石が採掘された現場は、現在も周辺に住む人々から「ホテル山」と呼ばれて

ときに必ず目に入る、非常に印象的な装飾です。次に「水鉢」ですが、両脇にある客室棟と大食堂との間、中庭にあったものと同型と思われるものが(図面中★写真3)。写真は見ると当時は植物が植えられていたことが窺えます。これらはいずれも、栃木県宇都宮市大谷町一帯で産出される凝灰

ホテルで使用された大谷石は、採掘から装飾に至るすべての作業が、鉄製の土木用具・ツルハシなどを使った手作業で行われました。ホテルの工事現場(写真5)や採石場跡に写る大谷石の表面には、手作業によって加工されたことを示す無数の溝が刻まれています。

ライイトの自伝によると、現場には各地から集まった石工たちが工事期間中、平均して六百人近くいたとされます。ライイトは、作業を効率よく進めるため、彼らに石を削ったり、持ち上げたりのため様々な機械を使わせようと試み

います(写真4)。大谷石は、耐火性に優れているため倉や塀などに使用されたり、多数の細かな孔があるため、耐久性は弱いものの、柔らかく彫刻がしやすいことから、装飾材としても用いられてきました。

ましたが、彼らは一向にそれらの機械を使おうとしませんでした。当初は理解に苦しんだライイトでしたが、その仕事ぶりを見て、慣れ親しんだ手作業による仕事の結果として最適であり、当時の石工たちの技術の高さに感嘆したようです。ふたつの解体材は、ライイトによってもたらされた、これまで取り組んだことの無いような複雑な造形を、日本の石工たちが伝統的な技術でかたちにするという、和と洋の出会いによって産み出されました。中央玄関に入る前に、少し立ち寄りご覧いただくと、ホテルに見られる美しい装飾が、当時の職人たちの高い技術に裏付けられていることを、改めて感じていただけることと思います。

参考文献  
・明石信道「一九九四『旧帝国ホテルの実証的研究』写真・図面版」東光堂書店  
・株式会社帝国ホテル編「一九九〇『帝国ホテル百年の歩み』」  
・フランク・ロイド・ライイト「樋口清訳『二〇〇〇『フランク・ロイド・ライイト自伝—ある芸術の形成—』中央公論美術出版

## 法廷服から見る和洋文化の交錯

●宮津裁判所法廷(5丁目63番地)



五丁目六十三番地の「宮津裁判所法廷」では、人形を使って明治時代の裁判風景を再現しています。壇上にいる人形を見ると、どれも「法冠」と呼ばれる黒地の帽子と、「法廷服」と呼ばれるガウンのような服を着ていますが、よく見ると役職によって文様や色が異なります。ここでは、それぞれどのような役割の人物がどのような服を着ているのかご紹介しましょう。



写真1 判事の人形

中央で椅子に腰掛けているのは、法律に基づき判決を下す判事です(写真1)。黒地に黒の曲線文様の飾りがついた法冠を被り、黒地に深い紫色で桐と唐草の文様がついている法廷服を着ています。桐は正面の胸付近に二つ、背面の中央に一つ配置されています。



写真3 書記の人形

勅令には図表がつけられ(図1)、形や文様まで細かく知ることができ、大審院の法廷には桐が七つ、控訴院は五つ、地方や区裁判所は三つと、裁判所の規模によって違いがあったことがわかります。また図を見ると、立襟に幅の広い袖、直線的な形の法廷服や、後頭部に帯がついている法冠は古代日本の服装を彷彿させます。条文には「明治二十三年十二月三十一日迄ハ『プロックコート』又は羽織袴ヲ以テ之ニ代用スル

人物は、裁判の様子を監視する検事です(写真2)。判事と同じく黒地に曲線文様の飾りがついた法冠を被っています。しかし法廷服は、黒地に桐と唐草の文様が付いている点は同じですが、文様の色は赤(緋)色です。向かって右の筆を手にした人物は、裁判の様子を記録する書記です(写真3)。法冠は前者の二つと異なり、黒地で模様がありません。また、法廷服を見ると桐の文様はなく、唐草のみが襟の部分に緑色で施されています。



写真2 検事の人形

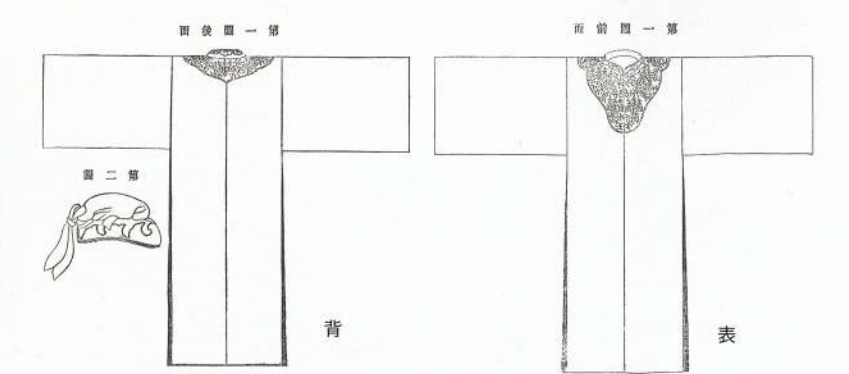


図1

コトヲ得とあり、法廷服が定められる前は、洋服を着ていた人もいたことがわかります。では、なぜ西洋化が叫ばれた明治時代に、古代日本を思わせる制服が定められたのでしょうか。この法廷服をデザインした人物に注目してみましょう。その人物は、古代日本の美術や風俗の研究をしていた黒川真頼という学者です。明治二十(一八八七)年に開校した東京美術学校(現・東京藝術大学)の制服をデザインした人物としても知られていますが、黒川の著書である『日本風俗説』を見ると、大化三(六四七)年の服制について、服の色は位の高い順から深紫、浅紫、緋、紺、緑、黒の順に定められていたと解説しており、法廷服の文様の色と対応していることがわかります。また、大宝年間(七〇一―七〇四年)



図2 黒川真頼『日本風俗説』より

明治二十年代になると、東京美術学校の創始者である岡倉天心をはじめ、明治維新以降急速に西洋化する日本を懸念し、日本古来の文化を再評価する動きが見られ、それはちょうど法廷服が制定される時期とも重なります。当時司法大臣であった山田顕義は、外国では古典的な様式の法廷服を採用していることを知り、日本もこれに倣うことを企図して、東京美術学校で採用された古典的な制服をデザインした黒川真頼に考証を依頼したとされています。つまりこの法廷服は、欧米の法廷に倣い服装を統一しながらも、その背景には日本文化を再評価しようという当時の思想が反映されており、和洋の文化が入り交じる明治時代の一面を知ることが出来ます。

現在、人形が着用している法廷服と法冠は、実物資料をもとに作成したものです。建物を訪れた際には、当時の法廷がどのような様子であったかを再現した臨場感のある展示をご覧いただくとともに、法廷服に込められた当時の文化的背景にも思いを馳せてみてください。

参考文献  
・黒川真頼編「一九二〇『黒川真頼全集 第四巻』国書刊行会  
・内閣官報局編「一九七八『法令全書 第二十三巻』」原書房  
・刑部省編「二〇一〇『洋服・散髪・脱刀服制の明治維新』講談社